

ランチと演芸場での大笑い：1 班活動報告（2017/7/21）

（記） 阿部

今日は隔月開催の 9-1 会の開催日です。お昼前に全員 7 名が西武池袋駅に集合し、先ずはレストラン・フロアに向かうことに。落ち着いた先は、東武百貨店池袋店 1 2F の洋食店「六本木六丁目食堂」。あたたかみのあるクラシカルなお店で、昭和の洋食レストランを彷彿とさせます。ワイングラスを胸元に、モナリザのようにほほ笑む女性。ぶどう酒「赤玉ポートワイン」日本初のヌードポスターが貼ってありました。

ナポリタンやオムライスといったいくつかの定番のメニューが並ぶ中で、注文メニューは全員がオムライス。何と主体性のないグループか！ 失礼。実はそうではなく、最初に注文メニューを決めた「決断力が早くリーダーシップの資質」の人、「何にした？」と人に注文を聞いてから自分の注文を考える「協調精神が旺盛」な人、他の人と同じものを注文する「組織への忠誠心が強い」人から構成されたグループなのです。理屈はさておき、オムライスはとても美味しく、その昼食を採りながらお互いの近況を語り合い、次回の 9-1 会の相談をしました。

お腹を膨らました後は、いよいよの池袋演芸場へ向かいました。切符売り場には、平日だというのに何人も既に並んでいました。ここの演芸場はビルの地下にあり、座席数は 93 席（全部イス席）と他の都内の 3 演芸場に比べてこじんまりとしています。どこに座っても演者の表情が良く分かり、芸人の肉声が良く聞こえます。また、ここは、また出演者数を絞り、1 人ひとりの演者に長めの実演時間を取ってあるので人気があります。確かに、どの演目も客席と一体感を持って展開され、とてもいい雰囲気でした。仲入りの時に後ろを振り返ると立ち見の方もおられ、その人気ぶりがうかがい知れました。

落語の他に漫才、講談、奇術があり、アッという間の 3 時間半でした。前座の市坊さんの落語「転失気（てんしき）」には笑い転げてしまいました。



